

菰野町が誇る希少な春の花

シデコブシ

こもの春案内

桜だけではない菰野町の花

菰 野町の春を彩る花は桜だけではありません。そのひとつに「シデコブシ」があります。

シデコブシは、低湿地に生育するモクレン科の植物で、花弁が11、20枚程度に分かれた花を咲かせる樹木です。福王山周辺や四日市市桜町周辺に生育しており、その中でも自然度が高く、多数自生している場所として国の天然記念物に指定されているのが「田光のシデコブシおよび湿地植物群落」です。ここでしか観察できない貴重な湿地植物の数々とともに100本余りのシデコブシが自生しており、例年3月25日ごろから4月初旬ごろまで花を咲かせます。花の見ごろは桜よりも約1週間ほど早く、満開の時には桜と同じように枝いっぱいに花を付けるため、花見を楽しめる大変美しい樹木です。



Star Magnolia and Wetland Plant Communities at Tabika

シデコブシの希少性に迫る

シ デコブシは、500万年、160万年前の時代には既に存在していたとされ、種子植物の中でも原始的な形態を留めている生きた化石と言われています。日本固有の植物であり、東海地方（愛知県・岐阜県・三重県）の一部にしか自生していません。菰野町周辺は生育地域の西限で、その中でも「田光のシデコブシおよび湿地植物群落」で確認できるシデコブシの花々の多くは、薄ピンク色をしています。

他の地域で生育しているものに比べて色味が濃いため、ここので見ることができない大変珍しい色をしています。生育地が限られているシデコブシですが、特に近年、湿地の開発、土地造成、ゴルフ場建設などにより全国的な減少と絶滅が危惧されており、環境省によるレッドリストの準絶滅危惧の指定を受けています。そのため、「田光のシデコブシおよび湿地植物群落」でも、シデコブシと自生する湿地植物の保全活動を進めています。

シデコブシの見頃

シデコブシの花は、毎朝日光を浴びて開き、日が暮れると閉じます。開花後に花の色や花弁が劣化していくため、花が美しいのは、開花してから2日程度です。



貴重な田光のシデコブシ

文化財調査員として10年以上、田光のシデコブシおよび湿地植物群落に携わっています。自然に自生しているシデコブシを観察できる場所はなかなか他にはありません。令和3年は例年よりもたくさんつぼみがついているので、皆さんにも満開の花をご覧いただきたいですね。

樹木医
鈴木耕作さん



自然保護と有効活用に励む

現

在は周辺道路などから観察できる「田光のシデコブシおよび湿地植物群落」ですが、以前は手付かずで雑草が生い茂り、どの樹木がシデコブシかもわからないような状態でした。シデコブシは主に湿地で生育する植物ですが、下草が多すぎると種子から次の世代が育たず、いずれ途絶えてしまいます。そのため、約15年ほど前から貴重な自然の資源を保全、活用しようと田光切畑老人クラブなどが中心となって毎年草刈りを行い、整備が進められるようになりました。草が生い茂りやすい晩夏に約10人ずつが6日間に分けて集まり、専門家の指導のもと草刈りを行い、シデコブシや湿地



▲田光切畑老人クラブを中心に毎年行っている草刈りの様子。夏場に6日間に分けて草刈りを行っています。

田光のシデコブシおよび湿地植物群落



住所

田光 2612-1 (周辺)

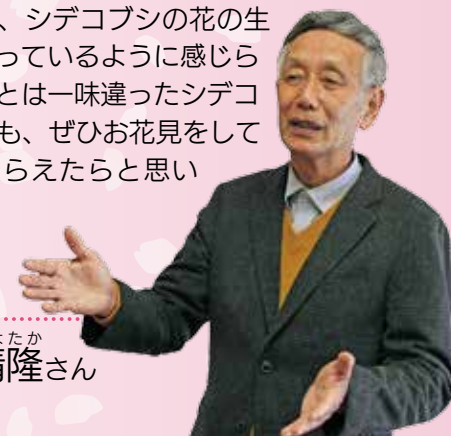
年間を通して湧水が湧き出ており、丘陵地に約900㍍にわたって帯状に湿地が広がっています。平成17年3月に国指定の天然記念物に指定されました。

シデコブシ
観察スポット

協力して貴重な自然資源を守る

毎年、田光切畑老人クラブで草刈りを行い、保全に努めています。刈り取ってあると景観も整えられ、シデコブシの花の生育もよくなっているように感じられます。桜とは一味違ったシデコブシの花でも、ぜひお花見を楽しんでもらえたらと思います。

田光区長
諸岡清隆さん



植物の保全に取り組んでいます。また、シデコブシの花が観察できる4月初旬には三重県民の森と連携して、毎年観察会を開催し、解説を行いながら参加者にシデコブシの花などを楽しんでもらっています。



▲鈴木さんの解説で開催されているシデコブシ観察会。見頃の花や木々ごとの特徴まで細かく教えてくれます。

観察上の注意点

立ち入り禁止のエリアには、貴重な湿地植物があり、マムシの目撃情報もあるため立ち入らず、シデコブシなどの植物の観察は道路か観察用の展望台からお願いします。

今後は、湿地内を散策してもらえるような遊歩道の整備などを検討しており、重要な自然資源を守りながら有効活用できるように、さまざまな機関と連携して準備を進めています。